

私の意見

三隅町青少年健全育成
連絡協議会

会長 白藤 一

我が国鉄鋼業界のある会社が、今後学園を廃してスポーツマンを採用したいとの意向を明らかにした。スポーツを通してその体力と根性と世に名を上げたその運のツキが今後会社に対する貢献度には

かりしれないものがあり歓迎したいと正に適切な勇断であると賞讃したい。今日程教育問題を大きく取り上げてその改革が叫ばれることもなからう。学園をなくするよう各官公庁、大会社の社会の受入れ体制に問題がある。いや大学制度を根本からは正すべきだ。六、三、三制から大改革の必要がある。又文部省の指導要領も改訂すべきだと、中教審がもつと本気で早期に改革すべきだと議論百出。受験に対する子供達。不安を取り除く

よう自由な伸び伸びとした教育はやれないものかと、一々ごもつともと思う。しかし年々増加する人口、狭い日本でこれからの生存競争に伍していくには当然のことではあるが各自の特技、特徴を生かすことにつきると思う。各自が夫々の分野で適性を見つけ出し、一途に努力を重ねその信念と根性により立派に社会の要望に応えていくものと思う。その当然のこと常識に考えて必然的のことが並大抵のことで克服することは出来ない。

明倫館入学 (4)

《床に風通しのある枳倉》



清風は十四才藩学明倫館に入学を許可された。父の命により毎日早晩出発して萩まで通学を続けた。片道二十軒(五里)の道を徒歩で通学した努力は精神的にも身体的にも甚大な試練であり、現在町民の「清風キヤラバン」はその遺風をついだものである。以来二十才の時を一寸除いては二十五才退館の時迄都合十年間ここにあって、其間、成績優秀で、藩公からも十数度褒賞をうけている。

二十才の時見習のため姉婿松浦忠左エ門(子孫大竹在住)に連れられ東上する途中、富士山を始め見て来て見れば聞くより低し富士峰積迦も孔子もかくやあるらん清風の気分と学力と実力、刻苦勉勵、大きな抱負をもつものとして若い血を湧かせてここ迄来た証左であろう。江戸において毛利家姻戚である老中首席松平定信(葉翁)に逢つ

天性の才能を持った人でも人一倍努力し仕事に熱中情熱を燃やし生きがいを求める。時折「今日はヒマだから何もすることがない」と言う声を耳にして、何と気の毒な人だ。明日に生きるためにも何と楽観的な姿勢だろうか、自らの力で自発的に開拓していかなければ人は手を貸してくれない。明日の社会を背負う若人よ、君の優れた才能を早く見つけ出し、育つよう努力するならば、親も社会も君に手をさしのべよう。

此船のよるてうことを夢の間も忘れぬは世の宝なりけり後に清風が江戸向島で西北の風防ぎして幕打てよ我が日の本の桜見る人と作つた歌と能く似ており、天保改革の出所進退やその内容は、定信の寛政の改革によく類似しており、做う所が少なくなかった。

この歌を見たのが水戸藩の名臣藤田東湖で、後年長州水戸が氣息を通じる様になったのも、これが因をなしているといえよう。また、定信は各藩に枳を貯えることを命じているが、清風がその意を体して江戸において柴田発堂について貯穀の法を学んでおり、旧宅の貯穀倉は下部の風通しに特徴があり、その成果である。槍術のけい古して一年皆勤賞を得たり、深川大寧寺素明和尚に参禅したり、役藍泉、繁沢豊城、山県太華等良師に恵まれ、早熟というより大器晩成であった

農地相談会の実施

近年農地をめぐる次のような問題が各地区において相談等が多く出ております。そこで次のとおり農地相談会が実施されますのでお気軽に相談して下さい。

- 一、日時、場所
 - (イ)昭和52年9月16日(金)
 - 場所 秋芳町公民館
 - (ロ)昭和52年9月19日(月)
 - 場所 日置村役場
- 二、相談内容
 - (1)農地を売りたい、買いたい、又は小作に出したい、小作したい場合の問題。
 - (2)小作地の引き上げや、小作料をめぐる問題。
 - (3)農業用水の利用に関するもめごとや隣接地との境界、日照りなどに関するもめごと。
 - (4)農地に家を建てるなど、他の用地に利用したい場合の問題。
 - (5)休耕田の活用についての問題。
 - (6)その他農地を利用するうえで起きているいろいろな法的な問題。

以上のことについて農地課職員との相談員で実施されます。

(農業委員会)



齊藤元宣